

第4回 学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会会議録（要旨）

日 時 平成29年4月13日（木） 午前10時00分から午前11時55分

場 所 市役所大会議室

出 席 者

（参加者）村橋正武、伊藤忠通、増田昇、松中亮治、横矢直和、瀬渡比呂志、
山本昇

（事務局）上村都市整備部長、北田都市整備部次長

岸田都市計画課長、有山都市計画課課長補佐

矢島学研推進室学研推進係長、松下学研推進室学研推進係員

案 件

テーマ「学研高山地区第2工区の土地利用について」

（1） 第3回懇談会での意見を受けて

- ①学研高山地区第2工区のまちづくり検討案のイメージについて
- ②学研高山地区第2工区の土地利用の方向性について
- ③交通ネットワーク形成のあり方について

配付資料

資料1 議論の流れとまちづくり検討案のイメージ

資料2 学研高山地区第2工区の土地利用の方向性について

資料3 交通ネットワーク形成のあり方について（案）

参考資料1 現況写真

参考資料2 平成18年度高山地区第2工区運土計画図

参考資料3 平成21年度高山地区第2工区運土計画図

開 会

座長挨拶

- ・ 前回の懇談会では様々なご意見をいただきました。それらを踏まえて事務局で再度整理していただきました。まちづくり検討案、土地利用の方向性、交通ネットワーク形成のあり方の3つの案件について、さらにご意見をいただきたいと思います。

案 件

以下の案件について、各資料に基づき事務局から説明後、参加者による意見交換。

（１）第３回懇談会での意見を受けて

- ①学研高山地区第２工区のまちづくり検討案のイメージについて
- ②学研高山地区第２工区の土地利用の方向性について
- ③交通ネットワーク形成のあり方について

意見交換の要旨

1. 学研高山地区第２工区のまちづくり検討案のイメージについて

- ①事業化方策を検討する場合、事業区域や事業費、事業フレーム、地権者の意向等を踏まえた事業の実現性まで考慮する必要がある。今回の懇談会では、土地利用計画へフィードバックする仕方のようなことをまとめた方が良い。
- ②学研地区は国家プロジェクトであり、国、県、市が事業化に向けてどのような連携を行うのか、その辺りが本懇談会の役割ではないか。
- ③事業化方策については、詳細な土地利用計画と併せて検討する必要があるので、この短期間で議論するのは無理がある。事業化に向け、今後検討すべき項目や課題整理、あるいは提案を行うまでをこの懇談会の役割としてはどうか。

（主要な意見のまとめ）

検討項目の１つである事業化方策については、「事業化に向けての検討」という表現に改め、本懇談会においては大きな方向性を示すこととする。

2. 学研高山地区第2工区の土地利用の方向性について

- ①自然重視型と都市型が重なっている部分については、中間的土地利用ゾーンとして設定したほうが、今後の土地利用を考えていくうえで良いのではないか。
- ②中間的なエリアとしては、複合型若しくは多様型など、土地利用のバリエーションを作るのも一つの案ではないか。
- ③重要路線となる高山東西線の位置は、土地利用の議論をするうえで一つの大きな判断材料となる。
- ④自然重視型土地利用の例示として、都市の多様性を高める土地利用とあるが、もう少し理解しやすい表現に改めるべき。
- ⑤都市農業振興基本法の制定や生産緑地法の改正によって、生産緑地の中に加工所等の施設も立地可能となるなど、6次産業化や都市農業の振興については法律的枠組みが一定図られた。
- ⑥都市農業を市街化区域内の都市政策として位置付ける場合は「都市農業を振興する（6次産業化を含めた土地利用）」エリアとして整理した方が良い。

（主要な意見のまとめ）

大枠の土地利用の範囲の表現としては、第3回懇談会時の表現である、都市的土地利用、自然的土地利用とし、複合的な部分については、次回の土地利用ゾーニングの議論において、再検討するものとする。

3. 交通ネットワーク形成のあり方について

- ①広域交通のネットワークについては、大阪・京都・奈良方面だけでなく、学研都市としての性質上、関西国際空港へのアクセスについても明記すべき。
- ②各駅の役割で、学研北生駒駅が高山地区の玄関口という考え方は良いが、新たな公共交通として高山東西線を利用した路線を検討するのであれば、祝園・新祝園駅は京都側の玄関口となる可能性も出てくる。
- ③クラスター間の連絡が重要であり、関係機関との調整・検討を進めるという表現に加え、公共交通で連絡する意思表示も必要であると思う。
- ④学研都市の人口規模ではバスは採算的に難しいのではないか。今までの公共交通とは違う自動運転のような新しいシステムも想定すべき。その場合、車両だけの完全自動化

は難しいので、道路側へのセンサー等の仕込みや、人通りの多い駅周辺の技術的な課題等、学研都市の中で共同で取り組むことができれば非常に良いのではないかと。

⑤高齢化社会における個別交通としての自動化、公共化を産官学の連携により検討することも方向性として記載できれば良いのでは。

⑥京都府の連節バスについては祝園駅から学研奈良登美ヶ丘駅までネットワーク化する構想がある。高山東西線の整備によって学研北生駒駅までつなげることができれば良い。

⑦公共交通を中心とした交通サービスのあり方については、学研全体で議論されている先端的な取り組みを先取りして、この懇談会で議論できれば良いと考える。また、地域整備を行っていく場合には、インフラとしての交通のあり方について、ソフト面で工夫し、学研都市の1つの顔として打ち出したらどうか。

(主要な意見のまとめ)

交通に関しては、できるだけ次の時代の顔をつくっていくという提案についても追記するものとする。